

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【公開番号】特開2006-14983(P2006-14983A)

【公開日】平成18年1月19日(2006.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2006-003

【出願番号】特願2004-196710(P2004-196710)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

A 6 3 F 7/02 3 1 3

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月5日(2008.3.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技球の始動入賞に基づいて遊技者にとって有利な特定遊技状態となる遊技機において、

遊技球が入球可能な始動入球手段と、

前記始動入球手段への遊技球の入球に基づいて、前記特定遊技状態の発生の有無を判断する判断手段と、

前記特定遊技状態となると、遊技球が入球不可能な閉鎖状態から遊技球が入球可能な開放状態への変移を1ラウンドとして所定回数行う可変入球手段と、

前記特定遊技状態における前記可変入球手段のラウンド間のインターバル時間を変更設定可能な設定手段と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【請求項2】

遊技球が流下する遊技領域が形成された遊技盤と、その遊技盤の遊技領域に配置され遊技球が入球可能な始動入球手段と、その始動入球手段への遊技球の入球に基づいて遊技者に有利な特定遊技状態とされる可変入球手段とを備えた遊技機において、

前記可変入球手段の前記特定遊技状態は、前記可変入球手段が開放されたのち所定個数の遊技球が入球したこと又は最大開放時間が経過したことに応じて前記可変入球手段が閉状態とされるラウンド遊技が複数回行われる状態であって、

前記所定のラウンド遊技が終了してから次回のラウンド遊技が開始されるまでのインターバル時間として複数種類の設定時間のうちいずれかを設定する設定手段を備えていることを特徴とする遊技機。

【請求項3】

請求項1または2に記載の遊技機において、

前記設定手段は、第1の特定遊技状態中に設定される第1のインターバル時間と、前記第1の特定遊技状態とは異なる第2の特定遊技状態中に設定される第2のインターバル時間とを異なる設定時間とすることが可能であることを特徴とする遊技機。

【請求項4】

請求項1から3のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記設定手段は、前記特定遊技状態中に設定される複数回のインターバル時間のうち、第1のインターバル時間と比較して、その第1のインターバル時間より後に設定される第2のインターバル時間を長く設定することが可能であることを特徴とする遊技機。